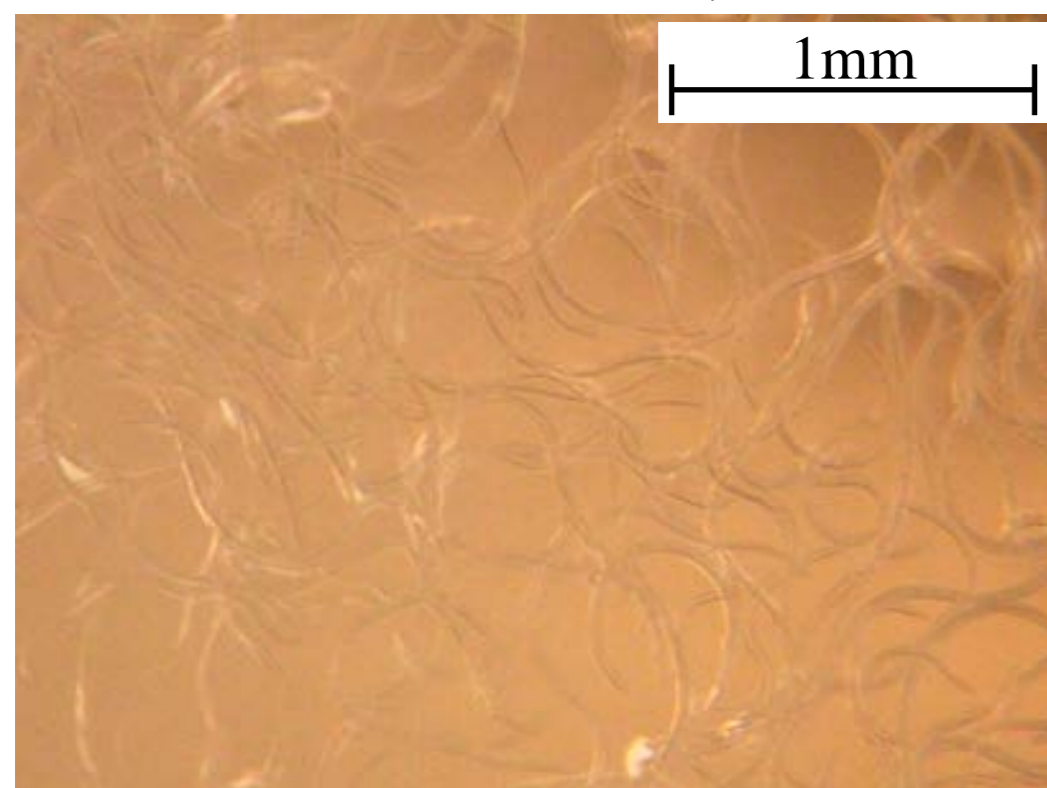


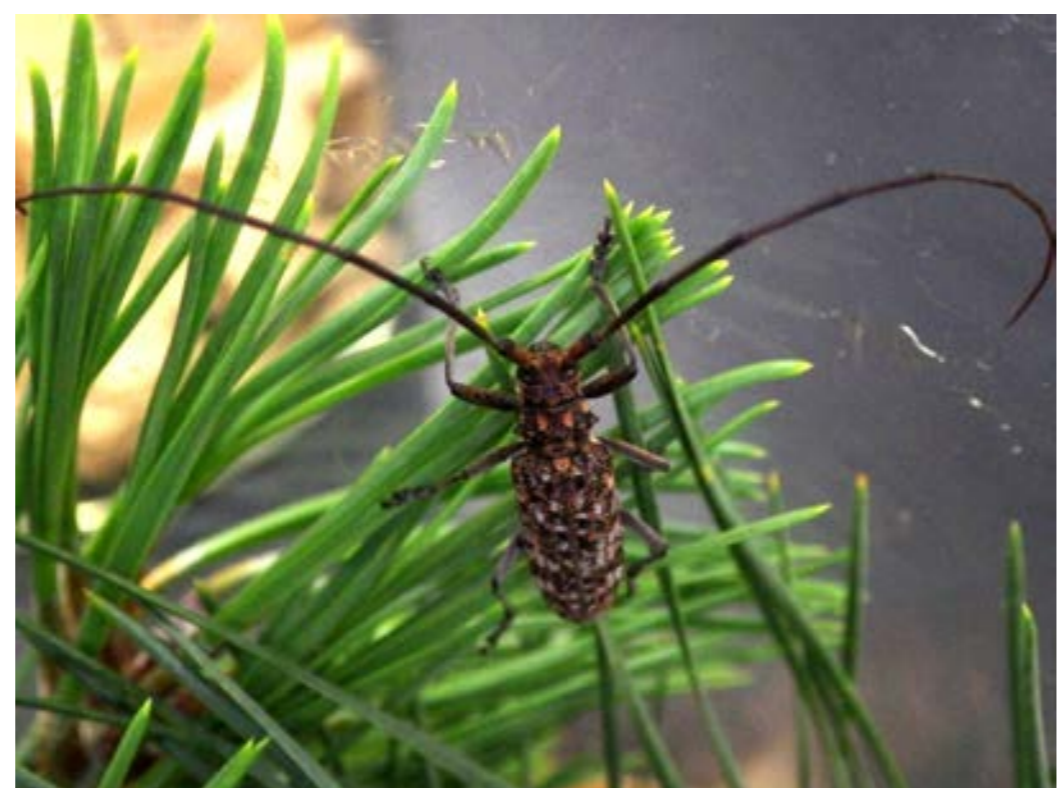
深浦町広戸・追良瀬地区における松くい虫被害

松くい虫とは？

「マツ材線虫病（松くい虫）」は「マツノマダラカミキリ」が媒介する「マツノザイセンチュウ」により引き起こされる樹木の病気です。マツノザイセンチュウは明治末期に日本に持ち込まれた外来種です。北海道を除く全国で、抵抗力を持っていなかった日本在来のマツ類（クロマツ、アカマツ、リュウキュウマツ等）を枯死させています。



マツノザイセンチュウ



マツノマダラカミキリ成虫



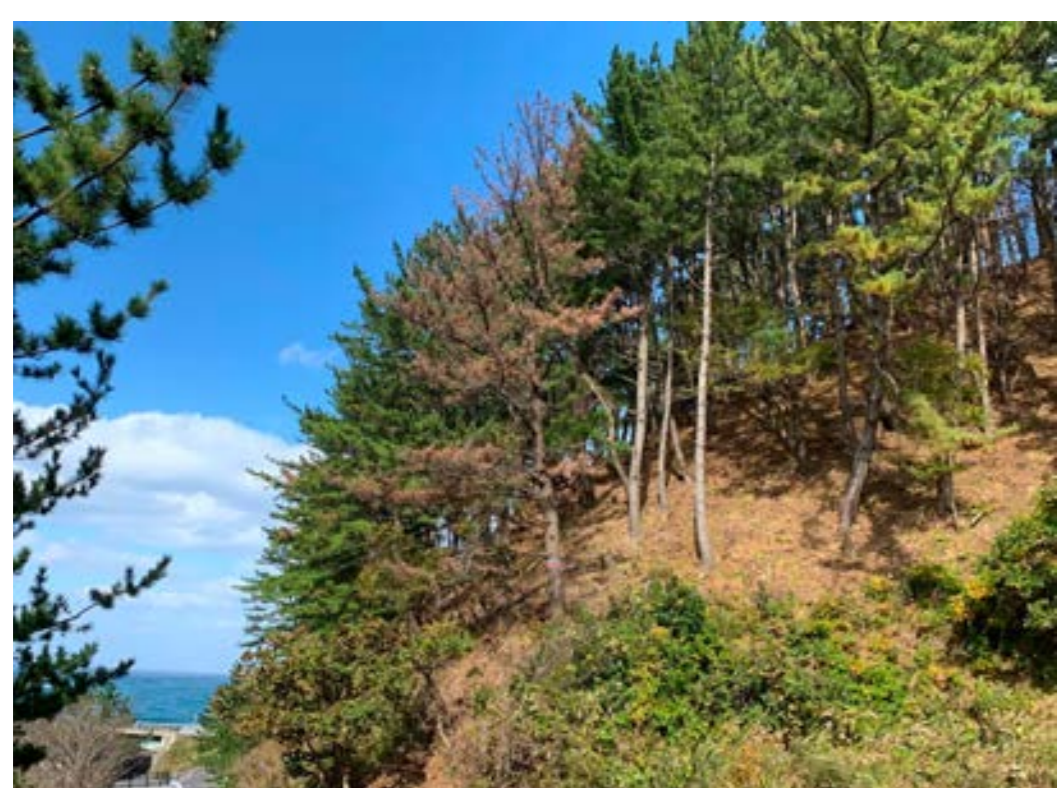
マツノマダラカミキリ幼虫



激害地（秋田県八峰町）

広戸・追良瀬地区の松くい虫被害

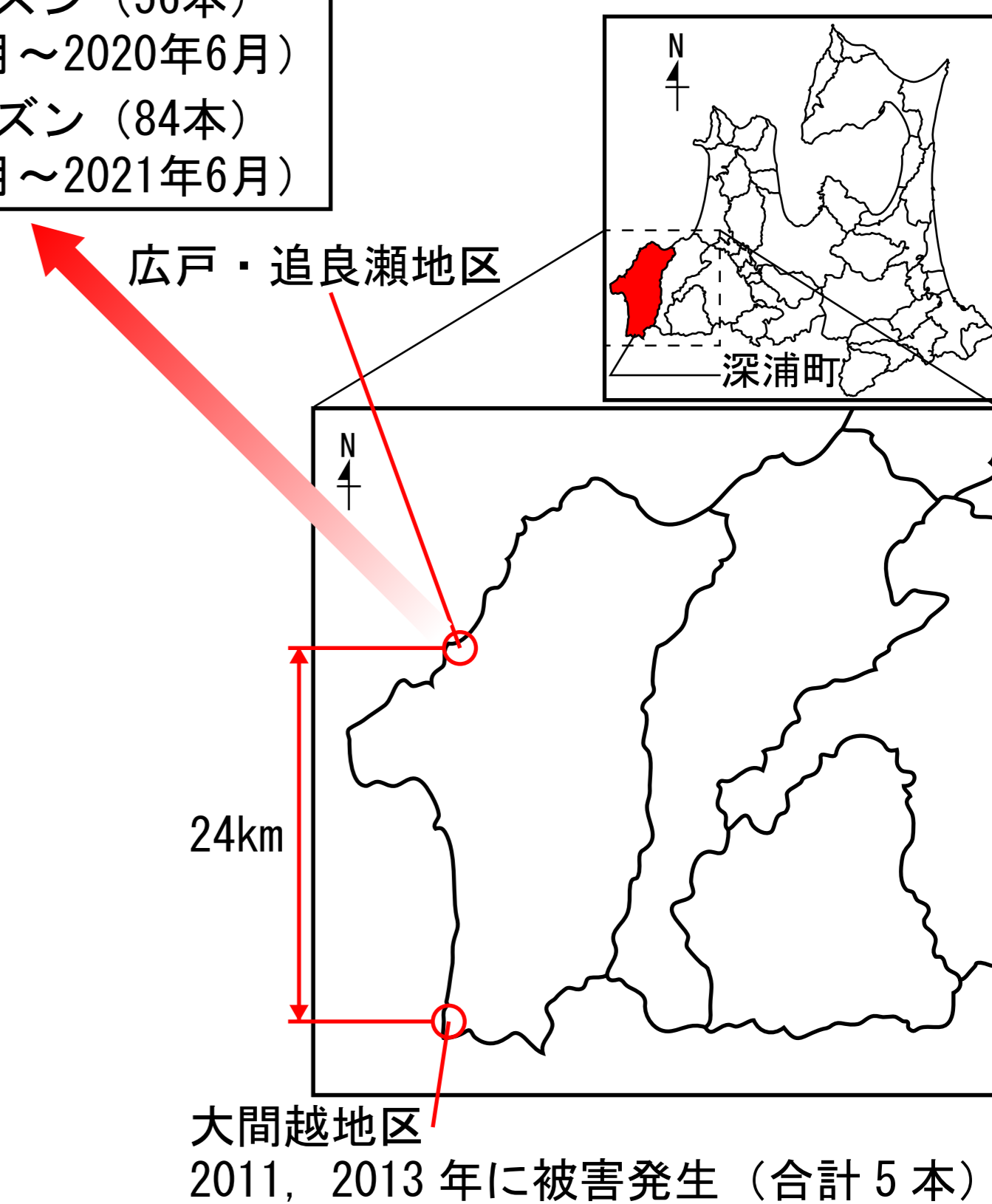
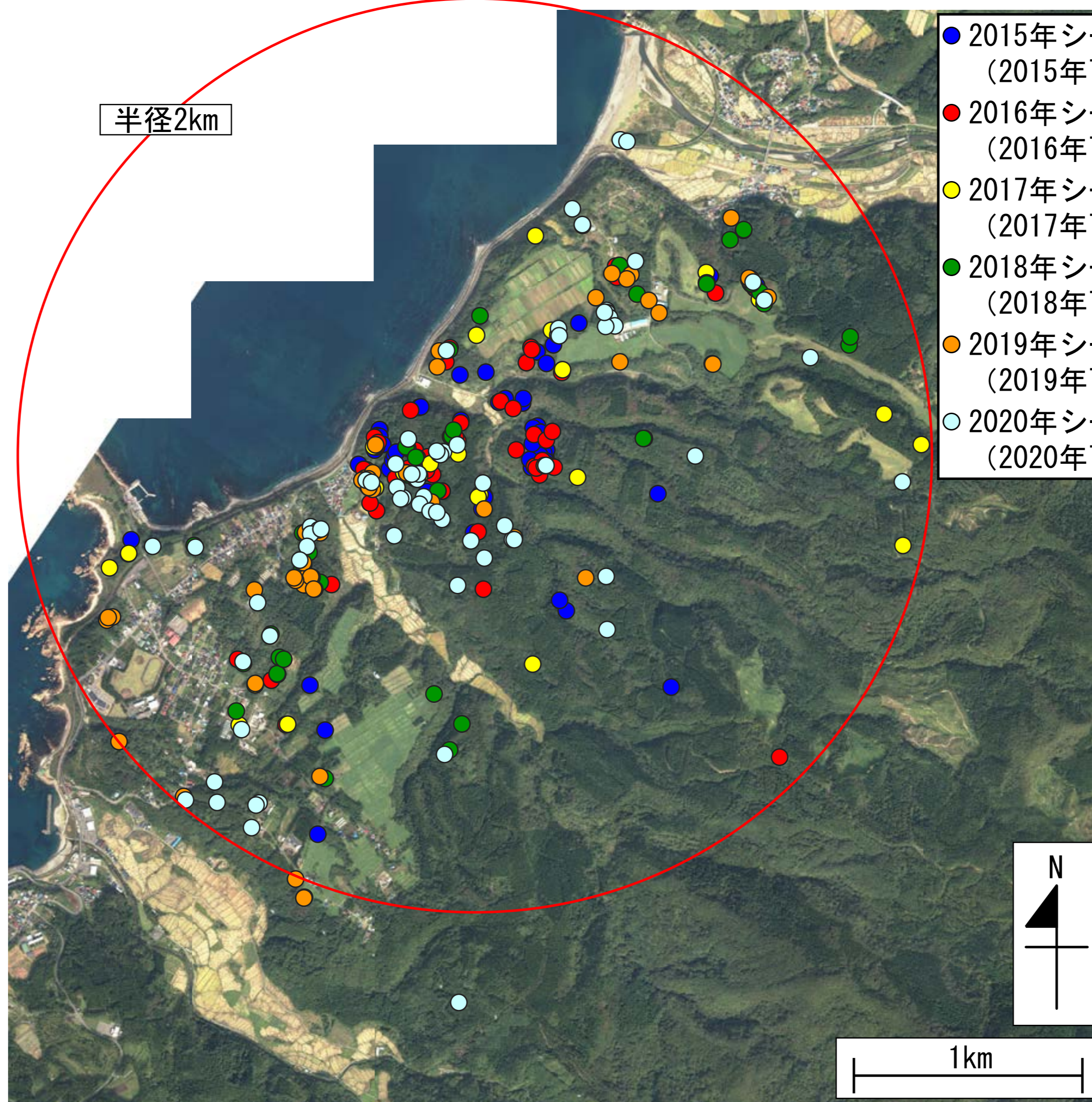
2011年以降、深浦町大間越地区で松くい虫被害が単木的に発生しました。2015年には、大間越地区から24km北上したの広戸・追良瀬地区で被害が確認されました。同地区では、2020年シーズンまでに被害木357本が見つっています。



松くい虫被害木（地上探査）
（広戸・追良瀬地区）



マツノマダラカミキリの
後食痕（広戸・追良瀬地区）



松くい虫被害への対応

本県で発生した被害木及びカミキリムシの繁殖源となる衰弱・枯死木は全て伐倒くん蒸し、駆除しています。これら異常木発見のために上空及び地上探査や樹脂流出調査を実施しています。被害木の早期発見、徹底駆除により、被害の終息を目指しています。



異常木の探索（ヘリ探査）
（広戸・追良瀬地区）



異常木の探索
（樹脂流出調査）



被害木の伐倒くん蒸処理
（シート被覆後）



くん蒸済みの被害木